

おすすめコース 〜横濱 歴史と文化コース〜

1 帆船日本丸・横浜みなと博物館

1930年に建造され、1984年まで船員を養成する練習帆船として活躍した後、ここに係留保存されています。船内を見学できるように整備し、併設の横浜みなと博物館では、「歴史と暮らしのなかの横浜港」をテーマに、展示物を見学しながら横浜港の歴史と役割を学べます。横浜港を航行する映像を再現した操船シミュレーターや、横浜に関するポスターなども見どころです。



2 神奈川県庁（横浜三塔・キング）

西洋建築に和の様式を融合させた「帝冠様式」による建築の、神奈川県庁本庁舎。屋上と展示コーナーは一般開放され、随時見学が可能です。館内の装飾も素晴らしく、壁や天井に見受けられる、牡丹(ぼたん)や蓮(はす)、梧桐(ぎくろ)を組み合わせた「宝相華(ほうそうげ)」という花の文様は、正倉院にも取り入れられているとか。横浜三塔の一つである塔屋が建物に乗り、その堂々たる外観はまさに「キング」。建物は、国の有形文化財です。



3 横浜市開港記念会館（横浜三塔・ジャック）

神奈川県庁(キング)、横浜税関(クイン)と並び「横浜三塔」の一つに数えられる高さ約36mの通称「ジャック」の時計塔を持つのが、国重要文化財指定の「横浜市開港記念会館」(中区公会堂)です。内部には481名収容の講堂や9室の会議室があり、市民の研修やイベントなどに利用されています。館内の廊下や階段は自由に通ることができ、レトロな雰囲気のリビーやスタンドグラスの細かい造作を心ゆくまで見学してくださいね。



4 横浜税関資料展示室（横浜三塔・クイン）

昭和9年建築の横浜税関は、ロマネスク様式はじめさまざまな西欧建築様式が混在し、「横浜三塔」の一つ「クイン」として親しまれてきた高さ51mの塔があります。1階にある資料展示室「クインのひろば」では、開港からの横浜港・横浜税関の歴史をつづるスクロール年表や貿易の変遷、麻薬やけん銃などの密輸の手法、知的財産を侵害した偽ブランド商品やワシントン条約に該当するはく製や標本等を、映像や実物展示により紹介しています。



5 横浜開港資料館

1972年まで英国領事館として利用された建物を、開港資料館として開放。閲覧室では、明治から昭和まで残る公私文書記録、新聞雑誌、写真や浮世絵などの収集資料を展示。企画展も開催されています。中庭に植えられているタブノキ、通称「たまくす」(初代は1866年の大火により消失し二代目)は、ペリー来航時に艦隊に随行してきた画家ハインズが「横浜上陸」や、「水神の祠」などに描いた、有形文化財。現在でも横浜開港のシンボルとして知られます。

